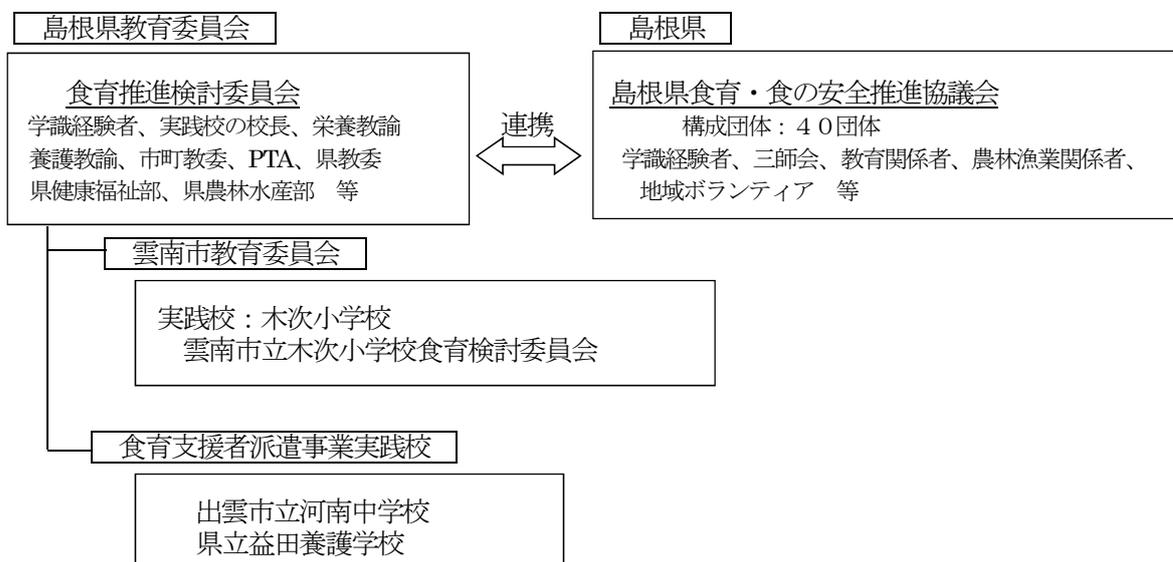


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	島根県
推進地域名	島根県全域

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	食育推進体制の整備
<p>栄養教諭配置校での取組が蓄積されている中、栄養教諭配置の効果を検証し、食育推進体制の整備を行うとともに、その取組を県内に広く普及させる。また、学校における食育推進の取組を支援するために平成22年度作成した「すこやかしまねっこ」（食に関する指導の指針）の活用を図るとともに、「すこやかしまねっこ」を活用した実践事例集を作成することにより、食育の一層の充実を図る。</p>	
<p>(1) 食育推進検討委員会の開催 検討内容：栄養教諭配置の効果について 食育推進体制の整備、食育推進の方策について 「すこやかしまねっこ」を活用した実践事例集について 開催回数： 年2回 委員：学識経験者、校長、教諭、栄養教諭、養護教諭、実践校、県教育委員会等</p>	
<p>(2) 食育推進研修の実施 県内の小・中・高・特別支援学校の食育担当者を対象に実施（必修的研修） 教育事務所管内ごとに隔年で実施 目的：各学校の食育担当者が食育の現状と課題等について理解を深め、食育推進に係る指導力及びリーダーとしての資質の向上を図る 内容：学校における食育推進の取組の事例発表（栄養教諭の実践や高等学校の食育の取組） 講演 「メディアと食の関係」 大阪市立大学 特任助教 千須和直美 先生 グループワーク 域内の食育体制整備に向けて情報交換 親学プログラムで食育について考えよう</p>	
<p>(3) 推進地域との連携 食育支援者派遣事業の実施校、中心実践校の雲南市立木次小学校への学校訪問</p>	

(4) 食育まつり、食育・生活習慣づくり推進フォーラムの開催

学校関係者、保護者、地域住民などを対象とし、食育への関心を深め、実践へつなげることを目的に開催

① 食育まつり

平成24年10月7日(日) 9:30~14:30

場所 益田市 益田地産地消祭りと共催

島根県食育・食の安全推進協議会との連携



② 子どもの食育・生活習慣づくり推進フォーラム

平成24年12月16日(日) 8:40~12:00

場所 奥出雲町 カルチャープラザ仁多 奥出雲町PTAと共催

内容 学校・PTAの取組発表等

- ・三沢小学校PTA「食育を通していきいき明るい三沢の子どもを育てる」
- ・亀嵩小学校PTA「いきいきかめっ子プロジェクト 学校・家庭・地域が連携して行う食育の取組」

<取組発表内容より>

○ 亀嵩小学校「自分で作るお弁当の日の取組」

弁当の日の取組は、児童の食への関心を高めるだけでなく、自立心や自己肯定感など、心の成長を図る上でも効果的な取組だった。

また、地域や保護者が一体となって子どもの健康づくりに取り組む雰囲気づくりにもなっている。



○ 亀嵩小学校 食育ソング「かめっこ カメカメ」



食育ソング「かめっこ カメカメ」は保護者が作成し、食育授業公開日に児童委員会の児童が全校に披露した。全校児童、教職員、保護者が一緒になって楽しくダンスをし、かむことをはじめ、食について関心を高めることができた。

＜参加者感想より抜粋＞

- ・「弁当」を通じて、楽しく「食」に向かう姿や「食」に感謝する心を学んでいることがすばらしいと思った。
- ・食の大切さを再認識できた時間となった。学校・地域一丸となった充実した実践で参考にしたい。
- ・食育ソング・ダンスを小学生・保護者・教職員みんなで楽しくできて良かった。地域とのつながりがある取組が良かった。
- ・家庭と学校が連携して取り組める食育はよいテーマだと思う。広がりを見せてほしい。

(5) 「すこやかしまねっこ」を活用した実践事例集(小学校編)の作成

趣旨：「すこやかしまねっこ」(食に関する指導の指針)を活用した実践事例集を作成・配布し、学校における食育の推進に役立てる。

◆ 「すこやかしまねっこ」実践事例集作成委員会を開催

開催回数：年5回

委員：学識経験者、校長、栄養教諭、養護教諭、教諭、県教育委員会等

◆ 実践事例集の内容

第1章 学校における食育の推進

「すこやかしまねっこ」食に関する指導の指針、食育推進のためのQ&A、参考資料など

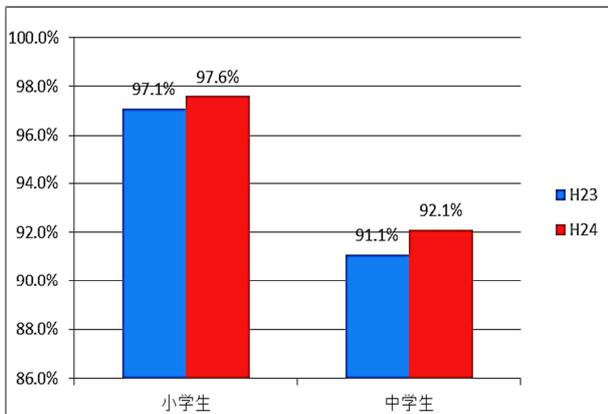
第2章 「すこやかしまねっこ」を活用した実践事例

「すこやかしまねっこ」(食に関する指導の指針)に基づき6つの目標ごとに具体的な指導事例(学習指導案)及び指導資料(ワークシート、紙芝居、カードなど)を掲載



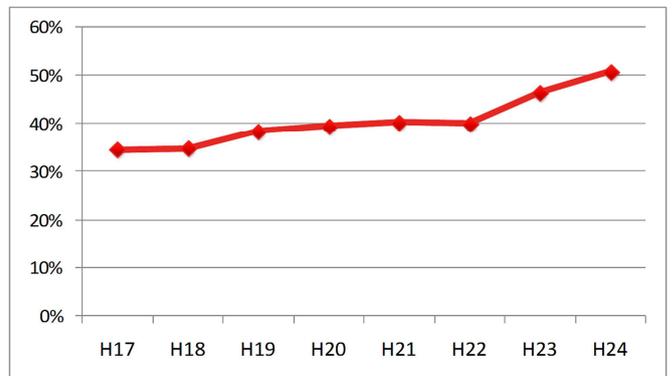
本事業における評価指標と考察

① 朝食摂取率(朝食を毎日食べる児童生徒の割合)

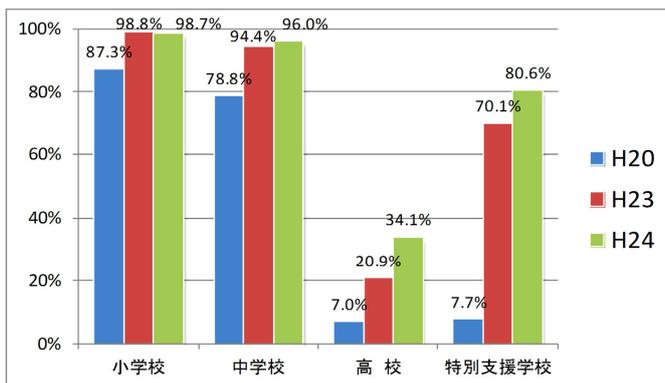


② 地場産物活用割合(食品数ベース)

H23年度 46.4% → H24年度 50.8%



③ 食に関する指導の全体計画の作成率



・朝食の摂取率は全体的に徐々に上がってきている。しかし、学年や男女により差があり、今まで順調に向上してきた摂取率が逆に下がった学年も見られた。今後さらに充実した取組が必要である。

・給食の地場産物活用は関係者の意識の向上が見られ、徐々に進んでいる。第二次島根県食育推進計画の目標値の50%に今年度達した。

・全体計画の作成率は高校や特別支援学校で大きく向上した。「すこやかしまねっこ」(食に関する指導の指針)を活用した食育推進研修の取組の効果が見られた。

本事業の成果

- ・食育推進検討委員会での協議、食育推進研修などを通して、栄養教諭がコーディネーターとなり、配置校のみならず、近隣の未配置校や給食の受配校での食育推進体制を整える気運が高まってきた。
- ・「すこやかしまねっこ」（食に関する指針）を活用して学校の食に関する全体計画や年間指導計画を作成したり、見直したりする学校が増えている。
- ・食育まつりや食育・生活習慣づくり推進フォーラムを開催し、推進地域や推進校のすばらしい取組を紹介することで、食育の意義を県内に広めることができた。
- ・「すこやかしまねっこ」を活用した実践事例集の作成が学習指導案の見直しや食に関する指導の実践に繋がっている。「すこやかしまねっこ」（食に関する指導の指針）および「すこやかしまねっこ」実践事例集の作成・配布が、今後さらに食育の一層の定着と質の向上の一助となるものと考えている。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・学校における食育を計画的、組織的に推進するための効果的な食育推進体制の整備が課題である。
- ・教育課程の中にどのように食育を位置づけていくか、また、効果的な食育の在り方等について研究を深めていく必要がある。
- ・栄養教諭の配置校が限られているため、職務について十分理解が進まないところがある。学校における食に関する指導の推進には管理職の姿勢が大きく影響するため、意義や必要性について繰り返し周知を図り、理解を深めていくことが必要である。
- ・コーディネーターとしての栄養教諭の資質や指導力向上のために、栄養教諭同士の交流の機会を作り、相互にサポートしたり、学ぶ合うことができる体制づくりが必要である。
- ・栄養教諭の食に関する指導について評価指標を作成し、食育推進の成果と課題を検証するとともに、今後の方向性を明確にすることが必要である。